二〇一五年九月二八日（京都蘆山寺・梨木神社 参加者七名）

嫗らの井戸端会議小鳥来る　小袖
舞殿の四方に燃え立つ紅葉かな　小袖
石庭に濃き老松の秋日影　小袖
大和歌碑なぞる指先萩白し　小袖
水汲ん場一会の会釈爽やかに　小袖
白砂の銀と輝く小春かな　小袖
友を待つ間の長かりし秋暑かな　ひかり
短冊のホ句をうべなふ萩の宮　ひかり
盛りなる萩に短冊揺れやまず　ひかり
色変えぬ松の影置く白砂かな　ひかり
縺れつつ不即不離なる萩の蝶　ひかり
秋灯下文箱に凛と菊の紋　菜々
紅白の萩にささゆれ恋の絵馬　菜々
妙齢の人のそびらへ一葉落つ　菜々
秋惜しむ式部邸址の縁に座し　菜々
萩葎へと紛れたる黄蝶かな　ぽんこ
御所づくり高貴ただよふ萩の道　ぽんこ
白壁に揺れやまざりしもみぢ影　ぽんこ
ひるがへる短冊数多萩の風　ぽんこ
白砂なる寺苑に桔梗矍鑠と　わかば
風さやぐ築地に仄と薄紅葉　わかば
萩叢を分け入りて読む一碑かな　わかば

吟行句会みのる選

二〇一五年九月二八日（京都蘆山寺・梨木神社 参加者七名）